

何人一首松穂抄 上之二





能書
原敏行朝臣

能書哥人

清和云南家祖武智磨六代孫也從五位上村田孫按
察使陸奥守富士磨子也母紀名虎女云左中將右衛
門督大門記云任從五位上云拾芥抄云至延喜七年
云云時卒也藤原姓姓氏錄云天智天皇八年始賜藤
原氏云

愚案大藏錄足更中臣氏云改姓賜者云氏至不此
等云武智丸南家房前北家宇合武家磨京家四家相分タリ

は撰集の事云云乃他云云葉平乃妹のまなりある事
に海物終りあり宇治抄云云こもむつ一敏り
といふ事云云乃云云云云云云云云云云云云云云
云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云

さみろのり云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云

倭ホニマニ通
そてハ八目
ハカルモ云云

師説今とんといふ人々多し然るに其の明なるを待たざる者
なりは然るをいふはなりと命を待たざる者なり

文屋康秀 家文琳

佛抄云先祖不見信人部類云元弘元年壬午位縫殿
助古今集云何様云古抄云乃成院時人云
貞名序云文琳工詠物云似名家云とばつて
一々其の身云は云いとも商人れ云と結云
云々
古抄云先祖不見信人部類云元弘元年壬午位縫殿
助古今集云何様云古抄云乃成院時人云
貞名序云文琳工詠物云似名家云とばつて
一々其の身云は云いとも商人れ云と結云
云々
古抄云先祖不見信人部類云元弘元年壬午位縫殿
助古今集云何様云古抄云乃成院時人云
貞名序云文琳工詠物云似名家云とばつて
一々其の身云は云いとも商人れ云と結云
云々

ソレテ山ノ
ソレテ山ノ
ソレテ山ノ
ソレテ山ノ
ソレテ山ノ

とねりいふはたの草木と貫之りて一なり云云
トは吹ぬうと云やういふとむむと云んを云と
云うはち一恒應諾いふ也云んを云はち草木の
花は云うと云うはち色は云うと云うはち山風と云
と云らんを云と云うはちいふはち山風と云
て嵐乃まらふと云云云云ありと云云云云
子れと云んは師説は云はち秋あり

大江千里

江抄云大江者人子也吾人多在系乃平乃兄弟也
千里伊豫守正五位下武從五位下川藏少佐作者
部類云延喜三年兵部大丞云云
大江氏或説云桓武天皇延暦九年冬十二月和名原
貞仲土師管磨改其姓為大枝朝臣是大江氏之始也

フテ
フテ
フテ
フテ
フテ

月ヲミレバ六
イウクトおが悲
シイワイガレト
リノ秋デナ
ケレド

月みれきた。と柳より此をわかれつゝ身ひくは松よあけ
 古今秋上見貞^{小所}みとの家の文合のうここまふま
 とせしう此若れとはは州云数りきりやう此さ
 と云候なり呼注にんく乃わあみ物とそとえ
 あんとお州云乃々強ゆる元なれどうち満
 ゆくとあみ衣まほしくまとのむりされど松も
 天下万民のたよくはるくわき一身の上の松
 乃やうりあぐく此まふらん師注乃之た
 ずりきれいひねくころりさる物也くわられ
 るわの身いまたの上松まはあぐもわの身くくの
 乃松乃やうくあゆまのんちかへ
 ふくろ物かり小乃まさくわが身ひく乃松丸松風
 炭とありてくちかへるめんわの身ひくと存り
 燕^王子^尾樓中霜月夜秋来只爲一人長白

大底オホソコ四時シジ心ココロ慙ウレシ苦ク就中シュチュウ腸斷チヤウダン是秋コノアキ天自テンジ

菅家

御名道真ハミチサダ字三ミ仍号菅三スエ北野天満神也

二六

御抄云天穗日命天照太神才二事十六代孫菅原清公孫參議從三位是善子也母伴氏云云系圖云美和十二年己丑誕生貞觀十二斗對策及第字多帝侍讀昌泰二年二月十四日任右大臣元亨尺虫云昌泰四年正月十日因左僕射藤時平之誤左遷大宰府都督云云系圖云延喜三年二月十五日於配所薨云云葬大宰府安樂寺云云根源云天曆元年七月記宜ありり名近馬場又云云云

名みおけあふ山乃さねうけ人々あはれきりて
 厚樸集ある。さんあのかにけのひるまに内抄云各
 一冊はといふふるまをち達板乃達と云名とさねうけ
 乃小後と云居りいひくちまもて守あり主師伝さぬろ
 と云味子と云草あり人々ある年残さぬう先てふ万葉
 りよあふぬあしやいゆると云あり名ア買をあは
 ど、いふ女なり。答におかしし。ふはわさるやうもあれど
 ねえさし。哥仙主師伝云あり小人乃人神火きたる
 ようさしあはあきねねぶす物とのふなり

山里ハイツテ
サシイカクハ
ベツシテサシ
ガタタワシ
ノコヌコトシ
トノカカレト
チヤカハテハ
タマノニエタ
人目モカレト
モカレタニヨ
サカレぬお
サハリも枯
思はるる
遠隔にい

南院於好抄云是忠親王家也。是系譜よりいへり
是忠親王の子ありしやあきなり

他志部類云天長三年六月十日卒

山びしはみづさびささきわくも人もも草をくぬぬも

古今を新みづさびささきわくも人もも草をくぬぬも

云草りかき人めあも成いひりあもさうもあも

家振云山里乃さびささきわくも人もも草をくぬぬも

乃けられもさり。なも新云乃よとが。なも草りあも

あもさのさびささきわくも人もも草をくぬぬも

ささきわくも人もも草をくぬぬも

一。乃抄云も成ささきわくも人もも草をくぬぬも

目と終るも多をかりべ。三冬院乃終云山里ハ乃

字をふりうもささきわくも人もも草をくぬぬも

あも中乃わくも人もも草をくぬぬも

凡河内躬恒 先祖不詳 古今撰考く人也

凡河内姓日本紀云天津彦根命凡河内直山代直等

祖也云云。御抄云古傳云先祖不詳宗祇云行氏孫謚

利子云云。古今序前甲斐小同云云。乃撰考く人也

乃厨子不願。他志部類云延喜廿一年正月晦是淡

路權椽無明抄云三条大相國撰北遠使別當とゆ

も。乃二条乃帥と二人躬恒貫くささきわくも

られり。あもささきわくも人もも草をくぬぬも

くれども。ささきわくも人もも草をくぬぬも

りく。あもささきわくも人もも草をくぬぬも

あもささきわくも人もも草をくぬぬも

ささきわくも人もも草をくぬぬも

いあそ

アノヤウニ初
カハニ花
ウチヤラシ

とれとあふふ乃その名明乃月降信とて空

力抄云。新名宿稱一男云。從五位下秋葉^{アキハ}
作爲於此云。迄終才復任者。改守于時文章生
山河乃幸たる云々。みちがた。就もあへぬ紫なり。集
古今抄下志云。乃山越云々。よふたね云々。

志賀山越とは・袖中物と云ふ白河八幡乃わくは・よりより
あり・高越うゝ志賀かゝ道之・黒柴今乃白河越乃南より
あり・昔志賀れも用なり・面白き・境地なり・堀川・百箇六百箇
合より・志賀山越と云題・後出なり

三ノ十四

田郎とて川面より吹くをくくちて辰云や。哥やも。市物云
 小川がくに高菜乃降るく吹乱る流まじせに久す斗
 なる辰真くく。凡くもまじくく。みくく先いしは
 くる下向くく。かみゆれくく。みく流れもあぬ徳が
 少くくはわきねく。かく執くあぬは凡く吹くく
 あかやうく降くく。あか紫辰いり。祇註目く所従く
 川底く徳乃あく流くわりく辰辰くく。凡くくく
 大井川凡くく。みくく。く。徳乃辰ゆくく。ぬくく

古今無幾一人也

市物云。孝元天皇、皇子彦太忍信、年より十九代の苗裔也。紀本道、弥宮門、狩り捕有朋子也。貫之從兄也云云。系圖亦記、古今序、大門記云云。古く、系概む

中よりせきさうり一と名傷乃教みなり
 久かみいりのちたまの目り志だ心なくむのおならじ
古くも下。後乃ものちれをみくらんれえ。
 とは白とり空といふ枕ほし。志にやなくと坐てなる
 心もなくと。おめ云鳥家つよけ心も人乃心むる心
 と人乃心むるにはゆゑとてあつと。対へぬことと
 也。この心とみるにあつた。奇心も果報云。空乃光の
 のづかられまの目は何ともむもあつた。心となぐお
 らむといひ。雨州云。雨凡りおもやなれ。公も目新
 りも癒くとありたり。ちねも何とたるやごとくも
 ほう恨残いひもたると。師説けあおさへまなくと
 にむむといひなりたる。げも大ね禁口候あり
 うはてむもさばらう。めもはれむる心。何いとん

藤原貞風

山所云。演成ハミナリ和奇式ハミナリ也。曾孫相摸。椽道成子也。正六位下。治了少丞。作者歌類云。河門大椽治了少輔。藤原系譜云。下野守号院。源太。

[illegible]

三ノ十七

清原深養父

ド
コ
ラ
ニ
マ
ツ

古
今
五
十
年
の
内
に
お
も
ろ
く
あ
ら
わ
る
た
漢

うはあ〜。やゝざり〜新酒もや〜ゆふ
う。やゝいけ〜月々どねん〜やん来。
あゝものねねとやうだ〜と明ぬる月の新やん
文屋朝原

市州云先祖不肖。延喜此人或記。延喜三年任大舍
 人^リ允^{云云}作者部類云文屋康秀子也太膳少進仁
 和^{比奈}後也^{云云}
 是乃凡のうさきく秋のふはるぬさとえぬ玉とあたる
 月柳林^中止露乃時町新や芳れいと
 土へハ秋玄頻々あつた見也月ぬさともえぬハ
 玉も^玉あつたにぬく物なりち。あ乃ちるん茂ぬさ
 とえぬやうく見もなかるあり。あゆま師読草を
 あびきてこれあの草の起くれとす。このを

ア、ヨイ月デ
アツタニ夏ノ

天武天皇皇子舎人親王子御原王孫夏野
賜清原真人姓又式部王曾孫岑成賜清原姓云云
大系圖云舎人親王貞代王有雄通雄賜清原姓
海雄房則深養父云云愚案通雄不見紹運錄
市抄云先祖不見一説豐前守房則子云從五位下
内近允于時藏人所難色云作者部類云筑前公
海雄孫豐前分房則子云大系圖同云并陸抄云
深養父神陀落寺也小野也深養父其子房則殿
山里といへりやと申云云小野乃下註なり

テイキツク
マハルマイガ
アノ殿ノヤノ
ドコラニマツ
タコトマラ

乃ち其子云云看ぞう刀ぬる成中乃いけこ月やとん
古今方内乃おしーろりおれ殿殿した漢云
其心もすし看ちうつ明ぬるもはたさみ
花かきう月乃面白きにすしやうかう明ぬる又地
多ぬるもりたあるのいはんや月乃いぬる
三十八

秋ノ野
ノ草ニ白
オキワタシタ
ノラニガ頻
リニフイテ
クレバヌキトメ
ヌ王ガサハカ
トナルワイ

文屋朝原

市抄云先祖不見延喜此人或説云延喜三年任大舎
人允云作者部類云文屋康秀子也大膳少進仁
和後也云云

乃ち其子云云看ぞう刀ぬる成中乃いけこ月やとん
古今方内乃おしーろりおれ殿殿した漢云
其心もすし看ちうつ明ぬるもはたさみ
花かきう月乃面白きにすしやうかう明ぬる又地
多ぬるもりたあるのいはんや月乃いぬる
三十八

席抄云。三条右大臣定方二男。母中納言山蔭女。從三位
 右衛門督云云。大和物語云。うは新あの中納言云。ほ大和類
 云。天曆六年冬。藤原朝三。年中納言。藤原三年十二
 月。薨。

七重ハミケラ
カシケツサ
シイ字のナバ
人コリコサ
シイノ添フ
来タワイ

お同く 要索ひつち同く 必ふ奇夜とれ藩師
読所と張つれ、なり 近喜よあり

是喜式あり

[illegible]

歿後一集於頤。西島院より海に寄る。樹より杖末ると云ふ。

卷之五

河原院於此抄云六条坊門南万里小路東八町云云。醍醐大臣家東

六条院と号する一室、禪園内院河原左大臣六条河原よりいひて平家

はろく世をわり水鏡をくみ毎有る潮と成るをうとと

今海陸より奥國咸に下りて是より東陸奥玉璽臺乃至

う片ては生れ怪危く事なり成之とく穀れ要頼とく少人原腹

何原侯賦云池放鯨鯢山住虎狼葉錦映水鸞鸞副色云李賀詩

祇註云、
心あるもの
に、
乃ち學ぶ

愛げやうと昔々秋の夜乃とて日成まをり

くはんたきしふちきふく
下河原院の昔

二十六終

邦のいづれもく
 けふとなく見ゆ
 之を。三光院
 内流びさ

ひ
ふたのふ
文字三
重なり
なまじ
やば
なまじ
らあ
と

を我やば人のみふりと母漸く我（まゝ）えゝるはを

て踏ふよわひ 本より杖をへ来つるよわとて

いふくも帰るれおめさひなう

今更其方一也

引人もおれとあるを、六室持しとあり

源、
二、
之

上州玄清^{ハヤシク}如^{ハヤシク}原貞元^{ハヤシク}親王^{ハヤシク}馬^{ハヤシク}國院^{ハヤシク}
 孫從五位下^{ハヤシク}兼^{ハヤシク}佐^{ハヤシク}

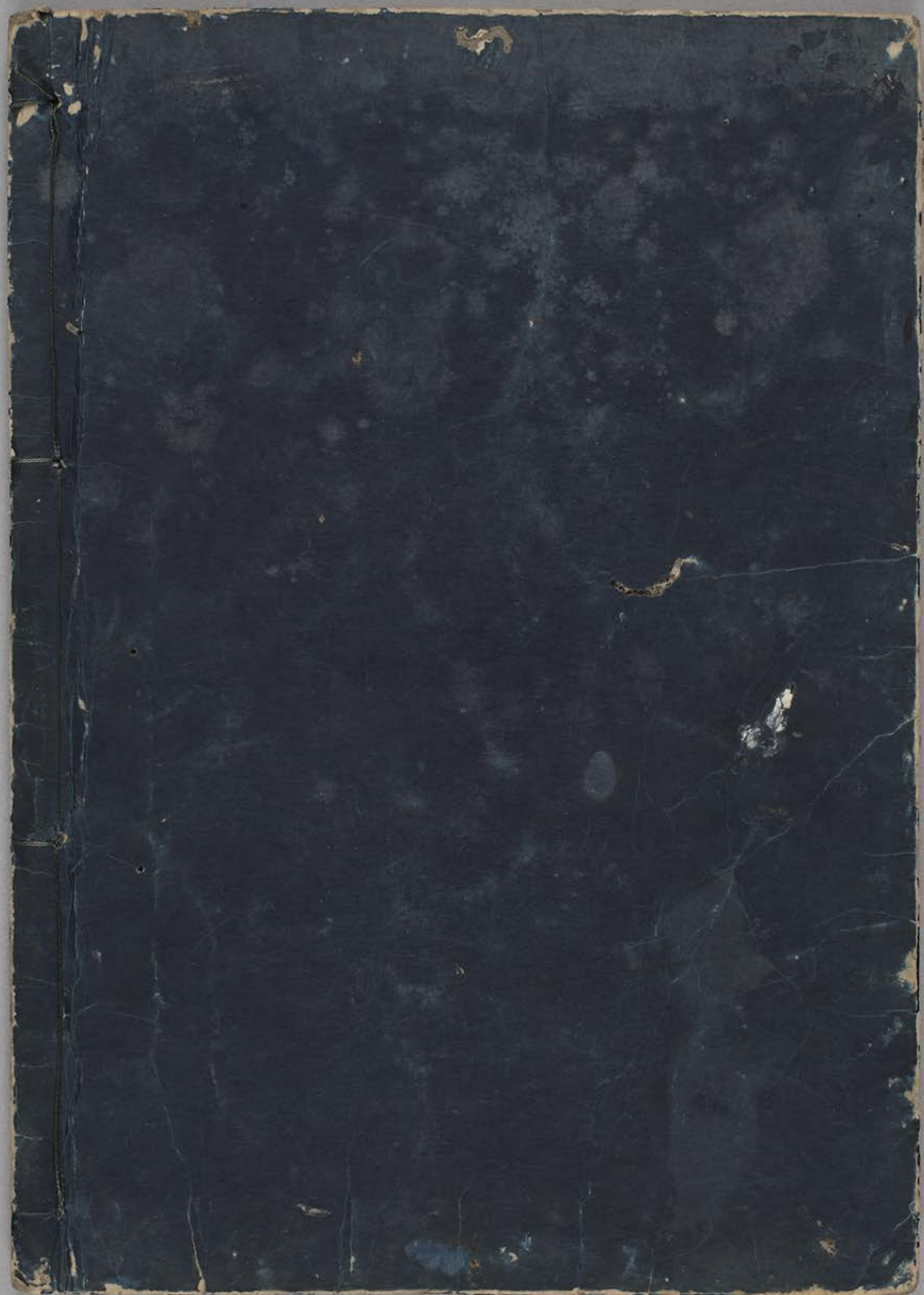
子也。兼信兄多之儀兼忠子に於る之を從五信下相

摸守左禹脚。吟泉院坊了功了苦了苦何の帝

刀方長保二子一與列子一卒矣。作方射盡於

物榮講求之徒

川カツヨサニ
 岩ニウチツケル
 波ノ聲ルヤサニ
 サキム人ハ氣
 ヲウテコチバガ
 リシレクダナ
 ニおとユス
 ルコトカ





x-rite ColorChecker® Color Rendition Chart